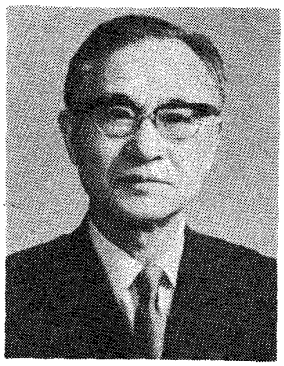
随　想



製 鉄 工 業 に 想 う

今　井　勇之進*

昨年3月 Metal Bulletin 誌は Pohang threat to Japan という題で躍進している韓国鉄鋼業がすでに日本の海外鉄鋼市場に鋭く切込んで来ており，やがてその喉笛を食いちぎるだろうと論じている．また昨年5月の米誌には業界情報の権威 IISI 事務局長 Baker 氏が今後 20 年間発展途上国の鉄鋼生産は年間 10% 増で激増し紀元 2 000 年には 41 000 万 t/y (ton per year) に達し日本の成長を大きく押え込むとの説を紹介している．

頽勢を覆うべくもない欧州が建直しに荒療治に乗出し，英国は老朽8製鉄所を閉鎖し，仏国は関係各省次官からなる再建監視委が強力な権限を持つて会社を2大系列に統合し，スエーデン国会は……等々各国が異常決意を示している事は外誌の報ずるところである．

ところで勝負は品質と価格で決する．製鋼技術において世界に冠たる日本製品品質の優秀さは論を待たない．また価格を決定する重要な要素の生産性は英，仏，独，伊いずれも 300 t/y 以下であるのに日本は福山 800 t/y，大分 1 130 t/y，その他にも大型化合理化により断然世界に擢んでている．

一方，価格決定の重要要素たる賃金ということになると日本の高騰はすべての企業とも異常だつた様に思われる．この7月，日経連セミナーでの桜田会長の報告に依ると春闘が初まった 1955 年には当時の為替レートで日本 100 として米国 913，西独 202 に対し 1977 年には 1$ 200 円として日本 100，米国 111，西独 105 (ボーナス含み)，英，仏，伊を遙に引離しているという．大手鉄鋼会社に限ると福利厚生手当などの事も考えてこの数字は更に日本高しとなると思われる．

生産性の優位は欧米の努力でも簡単に日本の地位が覆るとは思えない．ただ筆者の心痛するのは冒頭にも述べたごとく後進国の躍進である．

今日の我々の技術を獲得したのは 50 年の努力の積上げというのも事実であるが，韓国の，特に事前訓練の極度に少ないままに昨夏操業に踏切った台湾の近代製鉄所の見事な操業経過を見れば，立派な装置とよき操業用のデータが得られ，能力ある工人の誠意と熱意があれば電子計算機が正確正当な操業を行い熟練の重要性が僅少になつたことを端的に示す．これは鉱石やエネルギーを持つた後進国に製鉄業に眼を付けさせるに十分であり，ベネズエラ，イランなどもよい刺激になつていると思われる．因みに Metal Bulletin 誌による 1977 年度大型設備新規計画分を国別に見ると，Argentina 1, Australia 2, Brazil 5, Belgium 2, Bulgaria 1, Canada 2, Czechoslovakia 3, E. Germany 1, Finland 1, France 1, Greece 3, India 3, Japan 1 (住友), Hungary 2, Italy 1, S. Korea 1, Mexico 2, Poland 4, Puerto Rico 1, Rumania 1, Spain 1, Sweden 2, Turkey 1, U. S. A. 7, U. S. S. R. 1, Venezuela 4, もちろんこれは年によつて異なるが後進国の躍進の一端が知られる．英国も 20 に近い報告があるが，大型以外のも含まれると思うので省いた．(77 年中完成操業に入つたものとなると Italy 9, U. S. S. R. 3, 日本でも大分第2高炉，川鉄千葉 Q-BOP，鋼管京浜プレートミルなどがある) これらは新日鉄を初め世界一流の技術の導入に依る生産性の高い新鋭装置であり多くは日本とは格段の低賃金で操業に入る．隣国中国を見ても武漢近代化を了し，鞍山本渓などの改装と上海に近代大型 500～1 000 万 t/y の宝山製

* 東北大学名誉教授

鉄所の建造を急ぎ，この2月には紀元2000年までに日，米を抜いて2億 t/y にすると決議をしている．1981年までに浦項850万 t/y を完成する韓国は第2の浦項を考慮しており，昨夏百余万 t/y の建設を了した台湾はすでにその拡張に入つたという．もう一つ例を Africa に見ると，筆者のノートからで洩れがあるとは思われるが，十年前までは暗黒大陸として文明の外にあつたこの大陸はすでに南亜連邦の鉄鋼業が近代化しつつあり，Egypt も精力的にこれに向つていることはよく知られているが，Nigeria が自国産原油の運送用の船舶の保有から進んで直接還元鉄を含む製鋼法 (D. R. 法と記す) を建設開始，Ghana も製鉄を中心のコンビナート建設を初め，Togo も小型ながらこの秋には出鋼予定，Lybia が120万 t/y 級製鉄所の入札を行い Tunisia も D. R. 方式の製鉄所拡張決定，Zambia, Morocco, Mauritius いずれも D. R. 方式採用，Algeria に至つては1000万 t/y の世界最大級の新鋭近代製鉄所を新日鉄の全面指導で建設に踏切つたという．Malaysia, Indonesia もこの例に洩れない．世界中製鉄所の一斉蜂起である．

先進の技術は何時かは後進に吸収される．

賃金の方も経営の形態にも依るが労使の協力覚悟によつて充分に合理的に制御できると思われる．私は毎年台湾に行き，また時々韓国を視てしみじみ羨しく勝負は人間が決するのだと痛感する．永年入超に過ぎた台湾の6月末における外貨50億$という．正に低賃金と勤勉の勝利である．日本の輸出大超過は大型・超合理化産業の鉄鋼と自動車が主体であり鉄鋼はあくまで素材であり，人手を食う造船業，ロープ産業などは急傾斜である．

筆者が昨年9月末 London でステンレス・スチールの国際会議に出た折，London 空港の管制塔の人々が英国籍の航空機のみに対してストライキを行つていたが飛行場からのタクシーの運転手が口を極めてこれを非難しているのを意外に想つた．これは数年前港湾労働者達(?)だつたかのストがこじれて拡大し，女王が見兼ねて英国の窮状を訴えストの中止を要請したのに対し労組の幹部が「女王が何と言われようとたとえ英国がどうなろうと我々は取るべきものは闘い取る」と豪語したこと，*Arnold* TOYNBEE が1975年10月“今や我が英国には不幸にして2の権威がある．1つは政府であるが他は労組である．前者はゼネストを恐れて後者に譲歩し勝ちであるがこの弊を直さぬ限り近く英国は混沌に陥つてしまう”と悲痛な稿を Observer 誌に寄せて逝つてしまつた事を知つていたからである．

これがおなじ英国であろうかと思つた筆者は英，仏語に全く堪能な青年の同行を求め数日英国の田舎まで至る処で民衆の反応を求め，そのすべてがストを強い憎悪にも似た目で見ていることを知り，国家の危機意識に目覚めているのを羨しく思つた．上記青年と週日を廻つた仏，スイス，北伊の田舎でも民衆の生活態度が日本より遙に素朴質素だと思い，世界から美しいと思われた日本の縦の道義は何処へ消えたのかと思つた．

先頃総評の大会の模様が放映された．

幹部が“来春こそは一指乱れずこぞつて1週間でも10日でもストを決行して10%以上の base up を勝取る”と壇上から叫んでいた．